

第3回加古川市かわまちづくり協議会 会議録

日 時	令和4年3月29日(火) 午後2時から 午後3時15分 まで
場 所	加古川市役所新館10階 大会議室
出席者	<p>加古川市 岡田市長(議長)          国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所 山田所長          加古川市町内会連合会 岸本会長          加古川商工会議所 釜谷会頭          大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 武田准教授          加古川漁業協同組合 渡辺組合長          兵庫県東播磨県民局 小川局長(オブザーバー)</p> <p>国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所 春藤統括保全官、小林課長          加古川市 川西副市長、守安副市長          市民協働部 田中部長、栗山次長          建設部 中務部長          健康医療部 大歳次長</p> <p>【事務局】          市民活動推進課 山野課長、西川副課長、村上尚係長、村上大主査          治水対策課 正中課長          都市計画課 中居係長          道路保全課 乾係長</p>
傍聴者	0人
<p>■決定事項          ・加古川市かわまちづくり計画(以下「計画」という。)については、案のとおり承認いただき、計画を決定した。</p> <p>■会議資料          ・資料① 第3回加古川市かわまちづくり協議会出席者名簿          ・資料② 加古川市かわまちづくり協議会設置要綱          ・資料③ 加古川市かわまちづくり計画(案)          ・資料④ 今後のスケジュール(案)          ・資料⑤ 令和4年度協働のまちづくり推進事業補助金(テーマ設定型)</p> <p>■会議要旨・質問・意見</p> <p>1 加古川市かわまちづくり計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 資料③に基づき事務局(市民活動推進課長)が説明。</li> <li>➢ 前回の会議でお示しした計画(案)からの主な変更点は、重要業績評価指標(KPI)の設定(P7)の追加、これまで実施してきたソフト施策(P11・12)の拡充、その他特筆すべき事項(P20～29)の追加と、(参考)整備イメージ(P30・31)の追加である。</li> </ul> <p>(質問・意見)          武田准教授： 計画について、ソフト事業等のプログラムが充実していてとても良いと感じた。協働のまちづくり推進事業補助金を活用した加古川・河川数でのイベント(以下「補</p>	

助金イベント」という。)は大変盛り上がっているため、補助金による資金面のサポートだけでなく、今後は事業を継続していくために必要な支援について、イベント主催者等に確認する必要がある。例えば、シンポジウムやワークショップを継続して実施したり、イベント主催者が連携する場を設けたりすることも支援の1つである。また、イベント全体をムーブメントとしてわかりやすい形とするために呼び名を付けるのも1つの方法である。今年度も、様々な補助金イベントの実施が予定されているが、河川敷ならではの取組である水面を利用するイベントがもう少し増えればより良いと思う。

KPIについては数値目標を追い求めすぎて、本来の目的を見失って足かせになっている事例もあるため、KPIの設定段階で慎重に内容を検討する方が良いと思う。かわまちづくりによって期待される効果として挙げている「住みたくなるまち」、「遊びにいきたくなるまち」、「安全・安心なまち」や、コンセプトである「駅からの回遊性を生み出す新しい日常空間の創造」を通じて街に対する愛着心が形成できているかを定性的に測ることができるKPIを設定するのが望ましいと思う。

パスについては、整備イメージを固定化し、多様な発想を狭める可能性があるため、イメージが独り歩きしないように公表の仕方には注意が必要である。

事務局： 補助金イベントについて、現在は補助金交付による金銭的支援やイベント開催にあたって関係機関との連絡調整などの側面的支援を行うだけでなく、市民活動団体の自主性による自立的な運営を促すことを目的としている。当課の役割は、市民活動団体を育成することであるため、今後行政としてできるサポートについて検討し、市民活動団体同士が連携する場の創出も考えていきたい。

水面の利用については、今年度は加古川堰堤周辺を活用してSUPが実施された。来年度については、SUPの外にカヌー等の事業提案を複数受けており、水面を利用したイベントは増加すると見込んでいる。

KPIについては、国土交通省や財務省から、活動指標ではなく、かわまちづくりの成果を計るものとして設定するようアドバイスを受けた。そこで、観光入込客数や河川敷を活用した取組件数、また補助金イベントの来場者数を設定するだけでなく、その他に本市が実施している市民意識調査を活用し、まちなみの緑化や河川敷等の活用に関して満足している割合や、かわまちづくり・ミズベリングかこがわの認知度も設定することで、かわまちづくりの取組全体の成果やまちに対する愛着や誇りにについても計っていきたいと考えている。

パスについては、あくまでイメージではあるが、様々なアイデアを阻害しないよう、公表する際は工夫していきたい。

岡田市長： KPIに設定している項目の中で、主に目標(4)「まちなみの緑化や河川敷等の活用に関して満足している市民の割合」の数値を高めていきたいと考えている。

渡辺組合長： 全ての補助金イベントは難しいと思うが、主催者や来場者にアンケートしてはどうか。反省点を次に活かすことができると考える。また、かわまちづくりに関する補助金事業以外で実施される独自事業への市としての関わり方はどうか。

事務局： 参加者へのアンケートについては、計画P28(2)アンケート調査等の結果のNo.3加古Re:Birthイベントアンケートにあるように、10/3に開催されたイベントにおいて主催者が来場者アンケートを実施した。次年度以降も主催者の声だけではなく、参加者の声も参考にしていきたいと考えている。

また、補助金イベントではない加古川・河川敷でのイベントについては、実施に際して行政がどのように関わるのが良いか、河川管理者とも協議しながら今後検討していきたい。

岡田市長： ご意見がなければ、計画(案)のとおりとしてよろしいか。  
→ 異議なし。(全委員)

## 2 これまでの取組について

- 資料④・⑤に基づき事務局（市民活動推進課長）が説明。
- 来年度、国に計画を申請し、8月頃に登録される予定である。登録後、概ね5年以内に国・市の役割分担のもと、整備を進めることになる。

(質問・意見)

山田所長： 補助金イベントについて、主催者の団体は主に市内を拠点に活動しているのか。

事務局： 例えばロハスパークのように、各地でイベントを実施している団体もあるが、多くは市内を拠点として活動している団体である。また、補助金イベントを実施するために、有志によって結成された団体も複数ある。今年度に主催団体のメンバーの1人としてイベントに携わっていた方が、次年度は中心となって団体を設立し、イベントの実施を計画しているケースもあり、輪が広がっていると感じている。

岡田市長： 補助金イベントの申請件数が増えており、先日、開催した公開プレゼンテーションの会場では多くの団体が名刺交換し、情報共有されていた。一方で、申請件数が今後も増え続けると、提案を断らないといけない状況になることも考えられるため、補助金についても、今後どのような形で市民活動団体等をサポートしていくかが課題であると考えている。

武田准教授： シンポジウム・ワークショップの実施は、とても良い取組だと思う。計画のP22～24にあるように、高校生や大学生といった若い世代が大勢参加することで、かわまちづくりへの貢献だけでなく、加古川市全体のイメージ向上や次世代の育成にもつながると思う。

渡辺組合長： 次年度の補助金イベントについて、加古川堰堤の北側部分は、遊覧船を浮かべるなど様々な活用方法を考えられると思う。また、加古川堰堤より下流の左岸は、少し整備をすれば釣り堀として活用できると思う。

岸本会長： 来場者が多くなると、ゴミやトイレ、騒音、水、交通渋滞などの問題が出てくるので、それらの問題への対策は行う必要があると考えるがどうか。

事務局： 補助金イベントは、近隣住民の協力があった取組であると考えている。騒音に関して苦情があったため、次の団体からはステージや音響の向きを変えるなど、対策を講じてもらった。また、道路の渋滞についても課題はあるが、警備員を増やすなど、主催団体と協議・連携しながら対策に取り組んでいきたい。ゴミについては、主催団体がイベント終了後に自発的にゴミを回収するなど、河川敷を綺麗に利用していただいていることについて感謝している。トイレについては、仮設トイレを設けて数を確保することはできるが、水が不足するなどの問題があるので、どのような改善策があるのか検討していきたい。

## 3 その他

事務局： 河川敷の利用については、国・県・市のそれぞれの管理部分があり、補助金イベントの実施にあたっては、警察や消防等の関係機関にも協力いただいた。また、国土交通省姫路河川国道事務所小野出張所と当市公園緑地課に提出する河川敷の使用許可の書類がそれぞれ必要であったところを、国土交通省姫路河川国道事務所の協力があり、様式を統一することができ、加えて、公園緑地課に提出する書類の写しを小野出張所にメール送信するだけで良いとの許可をいただいた。手続きが簡素化することで、団体にとっては利便性が向上した。改めてお礼申しあげたい。

以上